



国民の森林・国有林

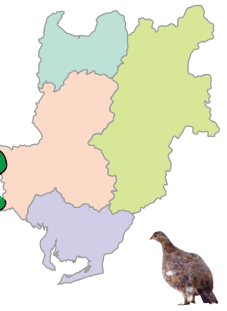
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



木曾の赤沢休養林でパズルラリーを団体でチャレンジ

木曾路にてパズルラリー開催中

森林に親しみ・森林の大切さを考えてみてください

主な項目	○ 木曾路にてパズルラリーを開催	P2
	○ 各地からのたより	P4
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P9
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P10

木曾路にて パズルラリーを開催

「ふれセン・木曽署・南木曽支署」

四月二十九日、木曾路の森林に親しみながら森林の大切さを理解してもらおうとともに、御嶽山噴火災害の復興支援を目的として、木曾路の各遊歩道を歩きながら六個のパズルを集め、板に貼ると一枚の絵が完成する「パズルラリー」をスタートさせました。

このパズルラリーには、木曾地域六町村の各遊歩道を歩く「木曾路全域コース」と、その普及用として赤沢自然休養林内の遊歩道を対象に、短時間で完成することができる「赤沢自然休養林コース」の二つのコースを設定しました。

「赤沢自然休養林コース」では、ゴールデンウィーク中に、多い日には一日五〇名以上の方がチャレンジし、用意した六〇〇セットの内、約四割にあたる二三〇セットが終了しました。当初、夏休みまで持てばと考えていましたが、予想以上の人気で二ヶ月足らずで終了となりました。同時におこなったアンケートの結果では、ほとんどの方が「良かった」との感想で、「継続して欲しい」との意見も多く寄せられました。

木曾路全域コースについては、協賛団体である木曾地域の全町村、全観光協会、木曾観光連盟、木曾広域連合等による各地域でのチラシの配布や、協賛団体

の各ホームページから当センターのホームページにリンクしてもらおう等のPR効果もあり、県内を始め関東方面や中京方面等幅広い地域の皆様方にチャレンジしていただきました。



親子でチャレンジ中

現在、赤沢自然休養林だけで渡している五〇〇番までの通し番号付きパズルも既に一四〇番代に突入するとともに、限定で一〇〇枚用意した、十二箇所全制覇達成記念賞品である、ハガキサイズの檜の板に、木曾街道六拾九次の絵を直接カラー印刷した「ミニ浮世絵」の獲得者も既に三〇名を超えました。

今後も、新たにのぼり旗をコースに設置し、道の駅の情報コーナー等にチラシを置いていただき、当初の目的達成のため、PR活動を進めます。

夏休み期間中のチャレンジの増加を期待しています。



チャレンジャーをお待ちしています

森林3次元計測システムを体験！ 木材生産の効率化WG

「名古屋事務所」 岐阜県森林技術開発普及コンソーシアムは、七月一日、岐阜県美濃市岐阜県森林文化アカデミーで「平成二十八年度森林資源調査や分析の効率化ワーキンググループ第一回セミナー(WGリーダー山田貴敏)」が開催されました。

このセミナーは、木材生産の効率化を図るために林分情報を正確で効率的に把握することを目的に行われました。

セミナーには、コンソーシアムに加盟する産官学の会員ら四〇名余が集まり、行政会員である中部森林管理局からは

局、名古屋事務所、森林技術・支援センター、岐阜署から九名が参加し、座学と現地実習を行いました。

講義では、(株)アドイン研究所、(株)森林再生システムから講師を迎え、「森林3次元計測システム『OWL』」を活用した林分調査方法について、講演と実演が行われました。



現地実習風景 (45秒計測)

講演の中では、森林の蓄積や収穫量を把握するために、毎木調査や標準地調査でデータの把握が行われていますが、今日的な課題として、「計測者による誤差の発生」、「計測員の高齢化」、「低迷する木材価格に見合う調査コスト」等を挙げられ、こうした背景から今回の技術を開発したとのことでした。

これまでも空中からのリモートセンシ



現地実習風景（その場で解析）

ング技術といった広範囲の調査方法があったものの、「費用が高額」、「林内環境まで正確な調査は出来ない」等の問題点があり、筑波大学、国立研究開発法人森林総合研究所との協同開発でレーザープロファイラ（地上）技術による「森林 3 次元計測システム『OWL』」を開発したとのことでした。

この OWL の操作性は、「器械設置が容易で傾斜地でも使用可能」、「1 地点の計測時間が短い」、「軽量・コンパクト」、「ソフト操作が簡単」、「誰でも利用可能」等の特徴があり、胸高直径、樹高などの計測誤差も少なく、曲がり、立木位置、間伐率、材積、3D マップ、GPS 値などがわかることから従来の森林調

査等への活用性が期待されます。

現地実習では講師の指導を受けながら、参加者が OWL を各自体験し、その操作性と森林調査の精度を検証しました。現地実習での検証では、葉に隠れた向こうの木やツルの巻いた木の胸高直径などの判読ミスなど技術的な課題等もありましたが、今後の森林調査・収穫調査業務の抱える課題等を解消できる可能性を感じました。

今後とも岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムへは積極的に参画し各種ワーキンググループでフィールド・技術・情報提供等を積極的に行い、産官学連携の輪を広げていきたいと感じました。

森とどう付き合うべきか 名学院大でシンポジウムを開催

「名古屋事務所」さる七月六日、名古屋事務所に近接する名古屋学院大学において『「山の日」を前に森との付き合い方を考える』と題してシンポジウムが開催されました。

このシンポジウムは同大学の現代社会学部の主催で行われたものです。開催にあたり、同学部の今村教授よりこのシンポジウムを通して森や木材との付き合い方から環境問題、地域再生などについて考えようという趣旨の説明がありました。

続いて情報提供として東海木材相互市

場（株）の代表鈴木和雄氏と NPO 法人「森は海の恋人」理事長畠山重篤氏の両氏の講演がありました。



講演する東海木材相互市場の鈴木氏

鈴木氏からは「コンクリート社会から緑の社会へ」戦後の政策と日本の山」と題し戦後の日本は木材資源が乏しく政策として木材消費を抑えたり、未開発森林の開発、関税撤廃による輸入材木材の利用を図ることで資源を回復する政策に重点を置いてきた。そして今日森林の資源は着実に増加し、この五十年間で森林蓄積は二・六倍となった。こうした状況を背景に最近では木造・木質化を推進するために建築基準法が改正されたり、公共建築物等木材利用促進法が施行されるなど木材を利用していくという流れに政策が変化してきた。現在の建築物を見ると住宅関係で木造率が六割程度と比較的高い水準であるが、非住宅の分野では平屋で

も木造比率二割程度であり非常に低い。公共建築物などはもっと木を使おうという方針を推進すべきである。我々木材業界もそのための努力と協力をしていきたいと話されました。

続いて演壇に立った畠山氏からは「森は海の恋人 人の心に木を植える」と題し、牡蠣養殖業の漁師による植樹活動を二十八年前から始めたが、この活動は小学校や高校の教科書でも採用されるなど、森と海は密接に繋がっていることへの理解を深めるきっかけとなったのではないかと感じている。高校の英語教科書で「森は海の恋人」をどのように英訳するかで色々な案があったことなどの裏話も紹介されました。



講演する「NPO 法人森は海の恋人」畠山氏

「The Sea Is Longing For the Forest」こんな表題で載った英語教科書を目にしたことがある方もいるのではないのでしょうか。

話は本題に戻り、二十八年前植樹活動を始めたときは「意味あるの？」と疑う学者が多かったそうですが、豊かな海に欠かせない植物プランクトンの成長、葉緑素の生成には窒素・リンと鉄分が必要なのが分かり、この鉄分が森から川へ、そして海へ補充されるのがその後の研究で明らかになって自分たちの活動に興味があったと再認識したとのこと。ちなみに黄砂も実は鉄分を運ぶ役割があるとの余談も紹介されました。

今では全国植樹祭の会場に大漁旗が並べられるようになるなど、自分たちの活動が森と海の距離を縮めた。今後、人々の心の豊かさに繋がればと話されていました。

両氏の講演を受けて、今村教授も含めたパネルディスカッションでは、「地域再生に山や森はどう関わるべきか」という議題についてパネラーからは、山・川・海の関係さえしつかり繋がれば田舎でも豊かに暮らせるはず。ただ政策の決定は未だに縦割りで決められることが多い。視野の狭い地域再生の取り組みが多く、繋がっているという視点で行政は取り組みを考えていただきたい。地域再生は山村や離島など小さな単位で考えてはだめ、木材関連で言うところ最近では県産材利用を推進しているが、川や道で文化はもっと広い範囲で繋がっている。国産材利用もそのような単位で考える必要がある、等の意見が出されました。



今村教授も交えパネルディスカッション

その後会場参加者から講演の感想を含めた意見等が出されました。

最後に、このシンポジウムを一つの機会として人と森との付き合い方を考えましようとして提起されシンポジウムを終えました。

表題に沿った課題提起が若干不明確であったためか、パネルディスカッションでの議論がかみ合わない場面もありましたが、参加した学生や市民それぞれが森との関係を考えるきっかけをつくるシンポジウムになったと感じました。

各地からのたより

「百二十年に一度」

ササ一斉開花

【愛知所】六月十日、愛知県設楽町の段戸国有林でササの一種「スズタケ」の一斉開花が確認されました。

確認されたのは段戸国有林（約五千畝）のほぼ全域で、五月二十三日に当所職員が開花したササを見つけ、国立研究開発法人森林総合研究所に調査を依頼し、六月九日から十日に現地調査を行いました。



スズタケの開花状況



花の拡大

ササはイネ科の多年生植物で、黄色い雄しべと白い雌しべが咲き、花びらはなく、開花自体がまれで、実を付けて枯死します。ササの一斉開花は百二十年に一度の現象で、過去の文献にはササの実を餌に野ネズミが異常繁殖し、植えて間もないヒノキやスギに食害被害が発生した例が記録されています。

このため、当所においては今後、中部森林管理局や森林総合研究所等と連携を図る中で、野ネズミの生息調査やササが枯死した箇所における稚樹の発生状況等ササの開花が森林に及ぼす影響について調査することとしています。

朝倉川530運動に感謝状

〔愛知所〕六月四日、豊橋市において朝倉川530大会実行委員会「NPO朝倉川育水フォーラム」から感謝状を受けました。

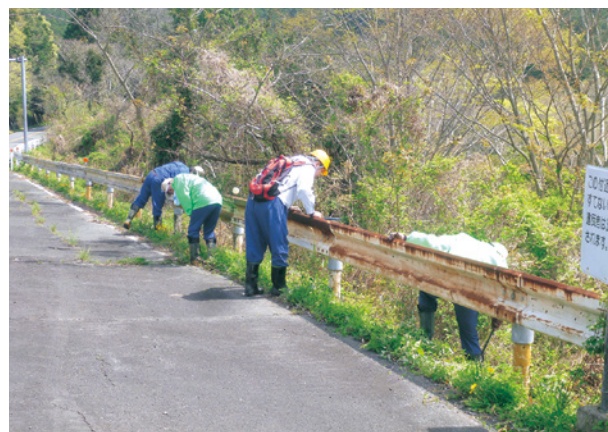


感謝状と豊橋森林官

今回の授与は、同NPOの平成二十八年度の総会時に、朝倉川530運動が今年で二十年目を迎えたことを踏まえ、この運動に賛同し長期にわたり参加した学校、企業、団体、自治会、行政を対象に感謝状の贈呈式が行われ、当所も十回以上参加している行政機関として感謝状を受けたものです。

豊橋市は、「530(ゴミゼロ)運動」の発祥地として知られ、この時期は市内各所で美化活動が実施されています。

朝倉川は、豊橋国有林を水源に豊橋市中心市街地へ流れる延長約八キロメートルの一級河川で、今年も四月九日に二千人を超える方々が朝倉川530運動に参加し、愛



530運動中の愛知所職員

知森林管理事務所からも職員五名が参加し河川環境の美化に汗を流しました。

大会実行委員会から、本活動の成果として、開催当初はゴミ総量で五十ト程あったものが、近年は一桁となり、朝倉川の生態環境も大きく改善され、昆虫類、魚介類、植物等が蘇っているとの報告がありました。

当所では、地域住民との協同作業の重要性とその効果を認識し、今後も継続してこの活動に参加することとしています。

フラワーロード事業に参加

国道一一七号線バイパス沿線

〔北信署〕気象庁が例年より三日早い「関東甲信地方の梅雨入り」宣言後の六



北信署職員による植え付け

月七日、勤務時間終了後、職員十三名が飯山市のフラワーロード事業で汗を流しました。

この事業は、昭和六十三年の国道一一七号線バイパス完成を機に延長二キロメートルの間を花で飾ろうと始つたもので、平成十八年から西回り沿線が加わり、総延長は七・五キロメートルにも及んでいます。

このうち、四キロメートルの区間を各地区や学校、官公庁、企業等四十三団体がそれぞれ分担して花を植栽し、九月上旬まで除草などの手入れをしながら大切に育てます。県内はもとより県外から訪れた方々にも大変好評を得ており、全国的にも珍しい飯山市民が誇れる活動の一つになっています。

今年も、国道一一七号線沿と曙町には、メランポディウム(黄)、千日紅



交通安全を祈って記念撮影

(赤)、西回り沿線には宿根草のシヨウメイギク(ピンク)、ガイラルディア(赤)の四種類約一万四千六〇〇本が植栽されました。

北信森林管理署が担当する三〇区間には六〇センチ間隔で車道側にメランポディウム、歩道側に千日紅を各々五〇本計一〇〇本植栽しました。

梅雨明けとともに、色とりどりの花々が一斉に咲き揃い、行き交うドライバーや同乗者の心を和ませてくれることでしょう。

飯山市にお越しの際は、美しい花街道に目を奪われて事故を起こさないよう「安全運転」でお願いします。

北信州植樹祭 第六十七回全国植樹祭県民植樹

「北信署」五月二十一日、北信地域における健全な森林づくりと、緑豊かな環境整備を進め、うるおいのある郷土づくりを推進するため「北信州植樹祭」が飯山市の花公園と上野の森で北信地方事務所管内のみどりの少年団、各市町村議会、関係機関の招待者約六〇〇名と当署職員も参加して盛大に開催されました。

式典では北信州林業賞の表彰があり、「上野の森の会」と「犬飼福島森林保護組合」の二団体が受賞されました。先人より受け継がれてきた山林で、環境整備や林内作業を行い北信州の林業振興に大きく寄与したことが高く評価されました。



北信州造林戦隊ウエルンジャーによる植樹説明

みどりの少年団の活動報告では、地元七つの小学校を代表して「飯山市立秋津小学校」六年生が日ごろの活動をパネル



「上野の森」植樹風景

で大変分かり易く紹介し、誓いの言葉述べると会場からは大きな拍手がおきました。

式典終了後、植樹会場に移動し、ヤエベニシダレザクラ、ヤブツバキ、サザンカ、アジサイ、マユミなど約七〇〇本を植栽しました。

今回植樹会場となった菜の花公園は六年前にも北信州植樹祭を行っており、当時植栽したサクラは立派に成長していました。今年は天候に恵まれ快晴となり、汗ばむ中での作業となり、苗木にとっても優しくない天候でしたが、先輩のサクラたちに負けないよう立派に成長し、春は花を秋には紅葉を楽しませてくれることを期待します。

巨木ブナの往診ツアーを開催

「北信署」北信森林管理署と「いいやまブナの森倶楽部」とは、相互の連携と協力によりイベントが円滑に実施できるように「イベント実施協定書」(平成二十八年四月、昨年度に続き二回目)を締結しています。

この協定に基づき、当署といいやまブナの森倶楽部が共催するイベント「巨木ブナ(森太郎・鬼ブナ)の往診ツアー」が六月二十二日に開催されました。

当日は天候にも恵まれ、大神楽国宥林内に自生するブナの巨木・森太郎(森の巨人たち百選)周辺を探索しました。

参加者は十二名で、四十〜五十代の男女が中心のメンバーで、スタッフのいいやまブナの森倶楽部会長の渡辺隆一先生(信大特任教授)や樹木医の根萩辰也先



巨木ブナの往診

生から、ブナの生態などの説明を受けました。

また当署の西村主任森林整備官から、昔、ブナの伐採やブナ林の保護を巡り、国有林と地元で意見の相違があった等の話があり、一般の参加者の方は、興味深く聞きっていました。また牧峠にあるブナ林の壮大さや、林内にブナの幼樹があり、参加者は、興味深く観察していました。

最後にスタッフから「冬期のブナ林の探索も楽しいです」と話があり、参加者は、「是非冬期も来てみたい」と話していました。

付知中学校で「山と木のお話」授業を実施

「東濃署」六月二十日、中津川市の付知中学校で、一年生四十八名を対象に「山



ブナの生態などの説明に聞き入る参加者

と木のお話」と題した授業を五時間目に実施しました。

この授業は、「森林を守り、子どもを育て、地域を創る」をミッションに活動している地元付知町優良材生産研究会（三浦八郎会長）が付知中学校の総合学習の時間を利用して毎年企画しているもので、「木を育てて使うまでの流れ」について、年四回の授業で学ぶことになっており、今回の授業はその第一回目です。

今年で取り組みも四年目となりますが、毎年、同研究会から依頼を受け、東濃署職員が講師を務めています。

授業の前半は、生徒が小学生時代に受講した森林教室を振り返り、森林のはたらきや、その機能を発揮させるために必要な間伐や治山工事、獣害対策の重要性について、加地主任森林整備官が説明しました。

後半は、高塚署長から、木材の利用を推進するために丸太がさまざまな場所に使用されていることや、木の良さ、秒単位で増えている日本の森林資源の現状を、人工林の齢級別面積や自給率のグラフ等で説明し、国産材を積極的に使ってもらうため様々な取り組みを行っていることを紹介しました。

生徒たちはメモをとるなど、熱心に耳を傾け学習していました。今後は、地元の大工さんを講師とした木工教室、加子母裏木曽国有林内「裏木曽古事の森」で



東濃署高塚署長の講義

育林体験授業、木曾ヒノキ備林の見学などが予定されています。

当署としても、次代を担う子供たちに木の良さ、森林の大切さをしっかりと認識してもらうため、今後も引き続き地域の要請に応え、積極的に協力していきたいと考えています。

佐久地区及び上小地域で森林祭 （全国植樹祭県民植樹）を開催

〔東信署〕五月二十八日に佐久地区、六月五日に上小地区において、第六十七回全国植樹祭の県民植樹と兼ねて森林祭が開催されました。

今年で六十八回目を迎える佐久地区森林祭は小海町、佐久地方事務所、東信森林管理署などの主催により、小海町豊里の町総合グラウンドにおいて、一般参加

者、林業関係者など約四〇〇名が参加して、レンゲツツジ、オオヤマザクラなど十六種類の苗木約一、五〇〇本の植樹を行いました。昼食時には緑の山々をバックに、御代田町シニア大学のコカリナグループによる演奏があり、アンコールの声がかかるほどの名演奏でした。



記念標柱設置（佐久地区）一番右奥 東信署松井署長

また、二十八回目を迎える上小地区森林祭は上田市、上小地方事務所、東信森林管理署等の主催により上田市下之郷の市自然運動公園において開催され、地元のみどりの少年団をはじめ、一般参加者、林業関係者など約九〇〇名が参加して、コナラ、クヌギなど五種類の苗木約四、五〇〇本を植樹しました。当日は四つの展示ブースの一つとして、中部森林管理局及び東信森林管理署の取組内容パ

ネルやカラマツ写真展の受賞写真を展示し、PRを行いました。
両会場の森林祭の準備に当たっては、東信森林管理署職員が積極的かつ自主的に協力したこともあり、終了後には実行委員から「本当に助かりました」とお礼の言葉をいただきました。



緑の少年団の風船飛ばし（上小地区）

全国植樹祭上伊那地区 県民植樹祭

〔南信署〕全国植樹祭が六月五日に長野市において開催されましたが、伊那地域においては全国植樹祭の県民植樹として、五月二十二日に松川町「およりの森」で下伊那地区植樹祭が、五月二十八日に岡谷市湊地区において諏訪地区植樹祭が、六月五日に伊那市鳩吹公園におい



コウヤマキを記念植樹
左から二番目 南信署花村署長

て上伊那地区植樹祭がそれぞれ開催されました。
六月五日に全国植樹祭と同時進行で行われた上伊那地区県民植樹祭では、林業関係者や緑の少年団、伊那市と友好協定を結ぶ東京都新宿区の鶴巻小学校生の六三〇名により、昨年から各家庭や学校、南信森林管理署においても育ててきたホームステイ苗を含め、コナラやヤマザクラ等、約一、二〇〇本の植樹が行われるとともに、併せて、広葉樹林内の除伐作業が行われました。
会場の鳩吹公園には大型スクリーンが設置され、長野市エムウエーブのメイン会場等と実況中継が結ばれ、最後には各会場において「ふるさと」の合唱が同時に行われ、各会場との一体感の中終了しました。
また、六月十日には、全国植樹祭式典会場で記念植樹された苗木を上伊那地区県民植樹会場となった鳩吹公園に植え替える記念植樹も行われました。

当日は、伊那市長、上伊那地方事務所長、南信森林管理署長、地元の伊那西小学校のほか、森林保全奉仕合宿で伊那市へ来た東京都立葛飾野高校生三五〇名も参加して、地元の樹木であるタカトオコヒガンザクラ、シナノキ、コウヤマキの三本を植樹しました。
五十二年ぶりに長野県で開催された全国植樹祭への思いが、県民植樹が行われたそれぞれの会場でも引き継がれていくと思います。

将来の御柱を育てる

御柱の里山で植樹祭

〔南信署〕六月十九日(日)、南信森林管理署と「木の文化を支える森」の森林整備協定を結び、諏訪大社下社の御柱用材を育てている「御柱の森づくり協議会」の植樹祭が、東俣国有林で行われました。
当日は、地元の下諏訪町の町長や議員、協議会員等の約一〇〇名が参加しました。

植樹に先立ち、六月五日に行われた全国植樹祭のメイン会場でも披露された下諏訪町木遣保存会による木やり「奥山に育て神の木」が行われ、その後、将来の御柱に育ってほしいと願いを込めて十二本のモミの苗木を植樹し、ニホンジカの食害防止の金網ネットも設置しました。

協議会長は、「今年行われた御柱大祭



食害防止の金網ネット設置



木やりの披露

でも、ここ東俣国有林のモミの用材が御柱となった。今日の自分たちの植樹や育樹作業が、百年、二百年先の御柱につながる。」と挨拶されました。
植樹後は、以前に植樹した箇所へ協議会員が分散して食害防止ネットの整備等を行い、未来の御柱の保全に励みました。
今後、御柱用のモミが国有林から将来にわたり持続的に供給できるよう配慮するとともに、地元との繋がりが一層深まるよう取り組みます。

行事・会議等の予定

- ◎費用対効果分析手法検討委員会
8月4日 長野庁
- ◎「山の日」レセプション
8月10日 松本市内
- ◎「山の日」記念行事
8月11日 松本市内及び上高地
- ◎国有林モニタ―現地見学会
8月23日 南木曾支署管内
- ◎愛知県特定鳥獣保護管理検討会
8月23日 名古屋市内
- ◎長野県山林種苗組合総会
8月24日 長野市



「東信署 真田森林事務所」

森林官 森田 直宏

真田森林事務所は、上田市真田町に位置し、約六八七〇鈔の国有林を管轄しています。また、管轄の菅平国有林は上信越高原国立公園に指定されています。

菅平高原は、夏でも冷涼な気候であるため、ラクビーやサッカー、陸上競技



菅平高原遠望



市場化テスト事業地（作業道開設）

等、様々なスポーツが盛んに行われています。また、夏の冷涼な気候を利用した高原野菜の栽培も盛んに行われています。

現在行っている森林事務所の業務の一つに、請負事業の監督業務があります。造林事業では、地拵え、植付の他に除伐、忌避剤塗布など作業は多岐にわたりに行われています。

また、生産事業では平成二十六年

らスタートした市場化テストの事業地が最終年度を迎えます。

現在は、菅平国有林の事業区域で作業道開設を進めています。

さらに、平成二十七年度から始まった生産性向上実現プログラムについては今年度は各現場で実施されています。

各現場では、生産性を向上させるために日報の活用や現場代理人と綿密な打ち合わせなどを実施し、事業の進行管理や問題点、その改善方法の検討などを行っているところです。

立地や立木の条件に生産性が大きく左右されるため直に大きな成果を出すことは難しいと思いますが、改善を積み重ねていくことで少しでもよい結果を出し、今後につなげることができるよう努めていきたいと考えております。

また、生産性、生産量にこだわりすぎて、安全がおろそかにならないように監督業務に励んでいきたいと思えます。

最後に上田市は今、大河ドラマ「真田丸」の影響を受け大変盛り上がりつつあります。

森林事務所周辺にも真田ゆかりの地として「砥石城跡」があります。天文一九年、村上義清の守るこの城を武田信玄が攻めあぐねた末に敗走した戦いは「砥石くずれ」と呼ばれているそうです。

「砥石城」は、当時最強とも言える武田軍を退けるほどの堅牢な山城でしたが、その翌年に真田幸隆は計略によって



砥石城跡

あっさりと落城させ、以来関ヶ原の合戦までの間、真田氏の重要拠点となったそうです。

上田市にお越しの際は、自然の地形を利用し侵入者を拒んだ山城「砥石城跡」に是非登ってみてください。



岐阜県最北端の険しい山間地に位置し、日本有数の豪雪地帯である白川郷は、茅葺の合掌造りの民家が点在する集



白川郷

ご当地
自慢

秘境・白川郷

39

飛騨森林管理署

落として世界的な知名度があり、美しい日本の雰囲気を感じ出しています。



合掌造

合掌造集落群には築三〇〇年以上の木造でありながら五階建ての民家等、特徴的な家々が立ち並び、重要文化財の指定を受けている建造物もあります。

また、日本三大秘境の一つとして知られ、一九七六年に重要伝統的建造物保存地域、一九九五年にユネスコの世界遺産に登録され、年間一七〇万人（外国人二六万人）の観光客が訪れ賑わいを見せています。

◆和田家

そのなかでも、和田家は白川郷では代表的な合掌造り住宅として主屋、土蔵等が一九九五年に国の重要文化財に指定さ

れています。

築三〇〇年を超え、現在保存されている合掌造りのなかでは最大規模の建築物で、庭や生け垣等周囲の環境の保存状態が良いことでも知られています。



和田家

◆どぶろく祭りの館

天下の奇祭と呼ばれる「どぶろく祭り」は、その名のとおり祭礼にこの年に仕込まれた「どぶろく」がお酒として奉納され、参拝者等訪れた人々にも振る舞われるのが特徴です。

毎年九月末から十月中旬に、五穀豊

穰・家内安全・里の平和を山の神に祈願し盛大に開催されます。

また、白川八幡神社境内にある「どぶろく祭りの館」では、毎年秋に行われる「どぶろく祭り」の概要や変遷等貴重な資料や遺物が展示されています。



どぶろく祭りの館

アクセス方法

高山市から東海北陸自動車道（高山IC）飛騨清見IC（白川郷ICを降り）からR一五六を経て白川郷（村営せせらぎ公園駐車場）まで。

四五キロ、約四十分